

W40a      **MAXI/SSC：運用開始から一年の現状**

木村公, 常深博, 北山博基 (大阪大学), 富田洋, 松岡勝, 上野史郎, 片山晴善 (JAXA), 大休寺新 (宮崎大学), ほか MAXI チーム

国際宇宙ステーションに搭載された X 線全天監視装置 MAXI は、2009 年 8 月に観測を開始した。観測から、一年近くたった現在でも、SSC (Solid-state Slit Camera) に搭載された 32 個全ての CCD は観測開始以来正常に作動している。ISS は 90 分で地球を一周するが、SSC は可視光及び赤外線にも感度を持っているため、ISS が夜のときを中心に観測している。これにより、現在の所、一日に置ける、SSC の全天カバー率は 30-50% になっている。しかし、半年ほどのデータを積分することで、おおよそ全天をカバーでき、現在では 50 を超えるソースが検出できている。また、CCD は軌道上での放射線などの影響を受け、その性能が劣化する。ISS は軌道傾斜角が  $51.6^\circ$  と Suzaku などの X 線天文衛星に比べて高く、高緯度帯を通過するため、放射線の影響を受けやすい。本講演では、いままでに得られた全天マップの紹介や、CCD 劣化の Suzaku/XIS との比較などを発表する。